

要旨

[研究目的]

看護部長とスタッフナースとの関係に影響を及ぼす組織的距離について、スタッフナースの視点から探究し、看護部長とスタッフナースとの関係性のあり方について考察する。

[調査方法]

関東・東海・近畿における病床数 400 床以上 500 床未満規模で、一般病床 350 床以上を有する病院施設に勤務しているスタッフナースに、無記名自記式の質問紙調査を行った。内容は、属性、看護部長とスタッフナースとの物理的距離・心理的距離、情動的組織コミットメントとした。看護部長とスタッフナースとの物理的距離では、調査票記入までの 2 週間に看護部長と接した機会と回数、看護部長による公式的な巡回の有無を尋ねた。看護部長とスタッフナースとの心理的距離では、スタッフナースが看護部長の存在をどのように感じているかについて、22 項目から成る尺度を作成し尋ねた。回答が得られた 1,151 名の調査結果を分析の対象とした。

[結果]

スタッフナースの約半数は、看護部長を「見かけるだけの存在」、「接する機会のない存在」と認識していた。看護部長を「親しみやすい存在」、「話しやすい存在」と認識していたスタッフナースは約 1 割であった。年齢が低く在職期間の短いスタッフナースは、看護部長を「見かけるだけで関わることのない存在」、「地位が高く遠い存在」と認識していた。年齢が高く在職期間が長いスタッフナースは、看護部長を「現場を分かっしてほしい存在」と認識していた。

看護部長とスタッフナースの接点は、偶然に生じたものであり、見かけたり挨拶を交わしたりする程度であった。スタッフナースの所属している病棟が物理的に看護部長室に近い距離にあっても、看護部長と接する回数は増えず、むしろ減る現状にあった。看護部長とスタッフナースの接点回数は、スタッフナースが所属している病棟で異なり、看護部長による病棟等への「公式的な巡回」の有無が要因となっていた。

スタッフナースが看護部長を「見かけるだけで関わることのない存在」、「現場を分かっしてほしい存在」と認識しているほど、スタッフナースの情動的組織コミットメントは低かった。一方で、スタッフナースが看護部長を「話しやすく親しみやすい存在」と認識するほど、情動的組織コミットメントは高かった。看護部長とスタッフナースとの接点回数が多いほど、スタッフナースの情動的組織コミットメントは高くなることが明らかとなった。

[結論]

看護部長とスタッフナースとの関係性は、スタッフナースの情動的組織コミットメントに影響を及ぼしていた。情動的組織コミットメントを高めるための看護部長の方略として、1. スタッフナースが看護部長と接する機会を確保する、2. 接する機会が一瞬であっても、挨拶を交わす、一声かける、名前前で呼ぶなど積極的に働きかけ、スタッフナースに関心を持っていることを意識して伝える、3. 話しやすく親しみやすい雰囲気スタッフナースと接する、4. 現場に関心を持っていることを意識してスタッフナースに伝える、5. スタッフナースの頑張りをフィードバックする、が示された。